

新春対談

二十歳と語る これからの岩沼



二十歳を祝う会実行委員
佐藤 桃華 さん



市長
佐藤 淳一



二十歳を祝う会実行委員長
布田 幹太 さん

市長 確かに自然が多く、竹駒神社と金蛇水神社には、全国から多くの方に来ていただいていますね。新型コロナウイルス感染症の影響が収まったら、市としてもできる限り応援したいと思います。

市長 お二人が思う岩沼の良い所を教えてください。
佐藤 私は、岩沼市の交通の利便性が高い所、そして緑豊かな自然や歴史ある金蛇水神社、二木の松などの観光名所に囲まれて生活できる環境が好きです。特に金蛇水神社は、助勤(巫女)として働くなかで、市民はもちろん、休日やお祭りの際には市外からもたくさんの方の参拝者があり、さまざまなかたから愛されている場所だと感じました。

市長 本日は、岩沼市二十歳を祝う会実行委員長の布田幹太さんと実行委員の佐藤桃華さんとの新春対談です。
令和5年から成人式が二十歳を祝う会」となって開催されることになりました。二十歳を迎え、岩沼市の未来を担う若者の代表としてお二人にお話を伺います。

岩沼のことが好き

市長 お二人とも岩沼の環境が生活や育っていくなかで良かったということですね。それを聞くと、やはりこの環境をしっかりと守っていくかなければならないと思いました。
市長になって改めて、岩沼はすごく可能性のあるまちだということ、そして仙台市に近く、企業も立地しやすいと土地も売れている。需要は高く人気も高い。その可能性を伸ばしていきたいと考えています。

布田 私は、3歳からずっとサッカーを続けているのですが、西部にはグリーンピア岩沼、東部には震災後にジュニアパーク岩沼ができて、平日は自由にボールを蹴ることができました。コロナ禍で学校が休みの時に、兄弟でサッカーの練習をのびのびと自由にできる環境と設備が本当にありがたいと思いました。岩沼は成長していくうえで、とても良い場所だと思っています。



佐藤 淳一 市長

出身地 岩沼市
主な経歴 中央大学を卒業し、衆議院議員秘書を経て、平成24年1月から令和4年5月まで岩沼市議会議員。令和4年1月から市議会議員を務めた。令和4年6月から岩沼市長へ。
趣味 ドライブ、食べ歩き、DIY

岩沼市に期待すること

布田 岩沼市は子どもが外で遊べる良い環境がある反面、最近は学校周辺や公園などで遊んでいると注意される場合があります。私の頃はそれほどではなかったのですが、今の子どもたちは自由に外で遊べないようです。何事にも頑張ろうという気持ちがあるなかで、部活動や自主練習が意欲的にできなくなる現状は、少し寂しくなります。子どもたちがのびのびと安全に遊べる環境が続くよう期待しています。
市長 最近はお互いに厳しくなりすぎるところがあるように思います。せっかく良い環境にあるので、おおらかに他者も尊重しつつ、今までの良い岩沼を残していけるようにしていきたいですね。
佐藤 昨年行われたAーバスの実証実験は、スマホから簡単に予約がで



布田 幹太 さん

二十歳を祝う会実行委員長
出身中学校 玉浦中学校



佐藤 桃華 さん

二十歳を祝う会実行委員
出身中学校 岩沼西中学校

き、好きな時間に乗れるという便利なサービスだと思いましたが、祖母が一人暮らしをしています。祖母が納めなくても考えると、車が無いととても不便で買い物なども大変だと思っっています。そのような心配があるなかで、状況が改善されるために、AIを使った交通サービスの充実に期待しています。また、小学校の時から教えていただいた活発なあいさつ活動についても、岩沼の良さの一つだと思つので、これからも続けることで広がっていくと良いと思つています。

市長 本場にそうですね。免許の返納を行うにしても、買い物や通院、友達の家に遊びに行くのにも足は必要です。お話をいただきましたが、これからAIバスなど便利な最先端の技術を使ってまちづくりを進めていきたいと思っっています。

佐藤 私は将来、市の職員になることを目指しています。そのきっかけとなったのが、約12年前の東日本大震災です。あれほど大きな揺れや津波を経験したことがなく、不安でしたが、両親や先生方が支えてくれました。また、夜停電になったときに、近所の皆さんが一つの家に集まり、大丈夫だよと声を掛け合つたことが、辛いなかを生きる光となりました。次は私が岩沼市の全ての方へ、何か役に立つことがしたいと思っっています。

将来の夢 これからの岩沼

限界を感じていました。そして、改めて自分のやりたいことを考えたときに、住んでいる地域が東日本震災の津波で被災したことで、マイナスになってしまったところをプラス以上にしたいと思つました。植樹のボランティアに何度も参加しましたが、全国から来たボランティアの方たちとやりとりをするなかで良い影響もありました。私は震災で自宅が津波の被害を受けたという経験があるからこそできることもあると思うので、市の職員となって、地域の役に立ちたいと思つました。

市長 立派な思いを伝えていただき、ありがとうございます。私も被災して布田さんのように自宅が津波の被害を受け、直接訴えていかなないと届かないという思いもあり、震災のあった年の12月に市議会議員に立候補しました。大きな災害は大変なことですが、それを見つかけに新たな目標や夢を持つこと、地域を良くしたい、市民の皆さんに光を届けたという思いが強かつたことを思い出します。そういったものがモチベーションとなつて自分の夢の実現

きつけに新たな目標や夢を持つこと、地域を良くしたい、市民の皆さんに光を届けたという思いが強かつたことを思い出します。そういったものがモチベーションとなつて自分の夢の実現

に向けて、頑張っていけると思つので、これからもその気持ちを持ち続けてください。

私は市長になった今、岩沼にもう少し賑わいを出して、みんなが楽しく暮らせるまちにしたいという思いがあります。現在、行政改革に力を入れており、無駄を見直し、その分を子育て支援や新しいまちづくりに注ごうとしています。ただし、自分だけでできるものではないので、色々な意見を聞き、その中からしっかりと判断していきます。岩沼をより良く変えていきたいので、お二人のような若い方に積極的にまちづくりに関わってほしいと思つています。

本日はありがとうございました。



対談場所 / 市長室
対談日 / 11月7日

